# 第三篇　樂　理

## 第十三　音樂理論問答

百七十九問

第一問　音（サウンド）は如何にして發するか。

答　音を發する原因は全く物體の振動による。宇宙間の有彈性物體は悉く音を發す。

第二問　音の定義を問ふ。

答　音とは發音物體の衝撃を受けて顫動し、空氣の媒介によりて吾人の聽官に感觸せる一種の力（エナージー）なり。

第三問　吾人の聽取し得べき音の限界如何。

答　吾人は悉くの物の振動を音として聽き取ること能はず。通例一秒間に十六振動する音より三萬八千乃至四萬の振動を有する音まで聽取し得べきものとす。

第四問　吾人の發し得べき聲音の振動數の限界如何。

答　細かに言へば人々によりて異なりと雖も、概して女子は男子よりも高し。而

して男子の最も低き音は一秒間に八十二振動する音にして、女子の最高音は一千四十四振動なるを通例とす。

（音と聲とは明かなる區別なし。同一に見てよろし。）

第五問　音の種類を擧げよ。

答　音に樂音（ミュージカルトーン）と噪音（ノイズ）（亂音ともいふ）との二種あり。樂音とは一定時に一定の振動數を有する音にして、吾人の聽きて愉快に感ずるものを云ひ、噪音とは一定時に不定の振動をなすものにして、吾人の聽きて不快の感を起すものをいふ。故に音樂上に用ふる音はすべて樂音なりと知るべし。

第六問　樂音には如何なる性質ありや。

答　樂音には調子（高度）拍子（長度）勢力（強度）及び音色（ティンバー）の四特性あり。

第七問　調子（ピッチ）（高度）とは如何なるものをいふか。

答　調子一名律（ピッチ）とは音の高低をいふ。振動數の多き音を高き音といひ、少きを低音といふ。例へば釣鐘の音は低音にして、呼鈴の音は高音なるが如し。

第八問　拍子（タイム）（長度）とは如何なるものをいふか。

答　拍子一名間とは音の繼續時間の長短をいふ。例へば緩漫なる音は長音にして、急速なる音は短音なるが如し。

第九問　勢力（強度）とは如何なるものをいふか。

答　勢力（強弱一名音量）は振幅の大小による。振幅の大なる音は強く、小なる音は弱し。振幅大なる音とは強き音を指し、振幅小なる音とは弱き音を指す。

第十問　音色とは如何なるものをいふか。

答　各人の聲及び各樂器に於て、假令其の調子（高度）拍子（長度）勢力（強度）を同じとするも、別に固有の特色あり。此の特色を音色若くはネイロと云ふ。風琴・箏・三絃・尺八・横笛・明笛の音の、何れも相異なれるは音色の異なるがためなり。

第十一問　音樂とは如何なるものをいふか。

答　音樂とは吾人の審美的感情が、音の媒介によりて現はれたるものをいふ。

第十二問　音樂を如何に分類するか。

答　音樂を分つて聲樂・器樂の二とす。聲樂とは吾人の聲帶によりて生ずる凡べての音樂をいふ。唱歌とは聲樂の別名なり。器樂とは凡べての器樂

と唱ふるものより生ずる音樂の總稱なり。

第十三問　旋律とは如何。

答　歌の曲節を樂典上にては旋律と名づく。旋律は亦フシともいふ。卽ち聲音の單一なる進行をいふ。

第十四問　音樂上旋律の主要なる所以を述べよ。

答　米國々歌ヘルコロンビアは、一回の吹奏にて能く民心を收攬し、治國安寧の基礎を固め、又佛國々歌マルセーユは王政顚覆に偉功を奏せり而して此等の偉功を致せし所以のものは、實に旋律の人心に感動を與へしに依るものといふを得べし。されば旋律は音樂の骨髓にして、聲樂にても器樂にても主要缺くべからざるものなり。

第十五問　音階とは如何。

答　音階（スケール）とは高度（ピッチ）（調子の高さ）の順を逐うて上下する諸音の一連なり。

第十六問　音階に何種あるか。

答　音階には全音階と半音階との二種あり。全音階は之を分ちて長音階短音階

の二となす。

第十七問　長音階（メージョーアスケール）とは如何。

答　第一音（主調音）より上方へ數へて、第三音と第四音の間及び第七音と第八音との間に半音を有し、他は悉く全音なる八音の一列は、之を名づけて長音階といふ。此の音階は第一音より第三度間、長第三度音程なるを以て此の名あり。長音階は其の性質爽快にして、快活なる感情を表はすに適せり。

白鍵音の一列中に於て長音階となるべきものは、只「ハ」を主調音とせる一箇音階あるのみなり。

第十八問　短音階（マイナースケール）とは如何。

答　第一音（主調音）より上方へ數へて、第二音と第三音との間及び第五音と第六音との間に半音を有する全音階を短音階といふ。此の音階は第一音より第三度間、短第三度音程なるを以て此の名あり。短音階は其の性質陰鬱にして、悽愴悲哀なる感情を表はすに適せり。

第十九問　短音階に自然的（ナチュラル）和聲的（ハーモニック）旋律的（メロジック）の三種あり。之を說明せよ。

答　自然音の一列中に於て、自ら短音階と稱せらるべきものは獨り「イ」より「イ」に至る八音一列の「イ」調短音階あるのみ。此の音階は全く本位音より成れるを以て特に自然的短音階と稱し、總べての短音階の模範とす。而して此の「イ」調短音階の如き關係に八音を構成したる音階は、すべて自然的短音階といふ。和聲的短音階は第一音より上方に數へて、第二音と第三音との間、第五音と第六音との間及び第七音と第八音との間に半音程を有し、且つ其の第六と第七音との間には一音半を有し、他は全音程なる八音一列のものなり。此の音階は重に和聲學上に用ふ。

旋律的短音階は上行と下行とを異にせり。卽ち上行的には和聲的短音階の第六音を變體半音上昇せしめて、和聲的短音階の缺點を補ひ、下行の際は七音を原位に復せしめると共に、第六音をも原位に復せしめて、全く自然的短音階の如くす。此の音階は專ら作曲上に用ふるものにして、吾人の單に短音

階と稱するものは、此の旋律的短音階のことなりと知るべし。

**第二十問**　半音階とは如何なる音階なるか、且つ其の例を擧げよ。

**答**　半音階とはすべて半音のみにて成れる音階にして、八音内に八箇の基礎音と五箇の變化音との十三音内に含有する十二箇の半音よりなれるものなり。

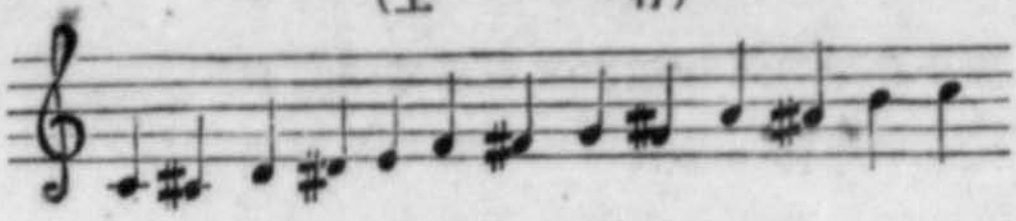
上行半音階の變化音は總べて嬰記號を用ひ、下行のものは總べて變記號を用ふ。

半音階は悉く半音のみなれば、何れの音より始むるも同一にして、音階の始終の感覺を與ふることなし。故に長音階短音階の如く音階の名稱を與ふるに不適當なるものなり。

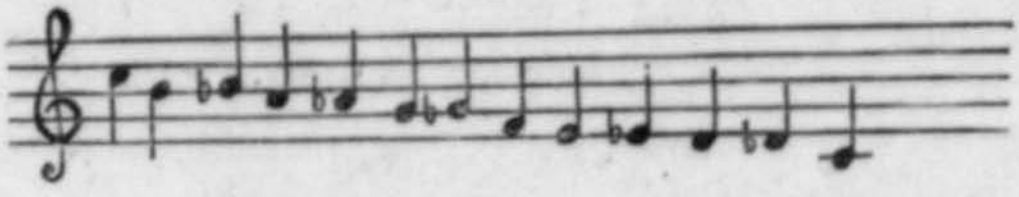
されば此の音階は一樂曲の主宰たる資格なきものにして、常に全音階にてなれる樂曲中に混用して、此等の樂曲を裝飾するに用ふ。

（上　　行）

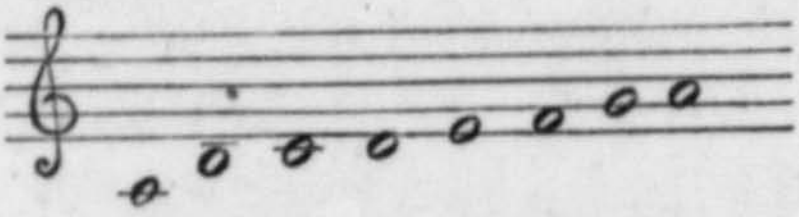
例



（下　　行）

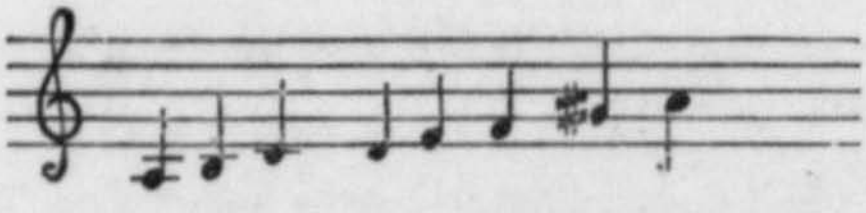


第二十一問　自然的短音階を高音部譜表上に記載せよ。



第二十二問　和聲的短音階を高音部譜表上に四分音符を以て記載せよ。

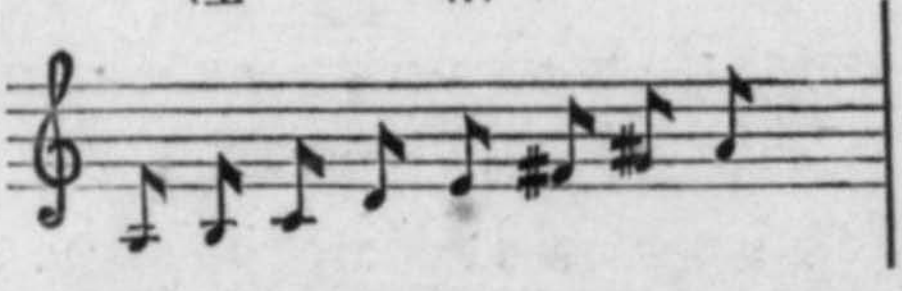
答



第二十三問　旋律的短音階を高音部譜表上に八分音符を以て記載せよ。

（上　　行）

答





第二十四問　階名とは唱歌練習上、便宜の爲音階の各段に附與したる名稱にして、英米諸國にありては「DO SI LA SOL FA MI RE DO」によりて唱ひ、我が普通教育にありては略譜一名數字譜「1 7 6、5、4、3、2、1」によつて唱ふ。此の數字譜は數字の順序に成りたるものなれば、其の各音の高低の關係は、其の順序により自ら悟り得らるゝを以て、初學の者には極めて都合よきものなれども、この七音中には口を開く音少く、口を閉づる音のみ多くして、發聲上の缺點甚だ大なり。故に近來音樂の發達著しくなりしと共に、中等程度の學校は勿論、小學校にありても一般に英米諸國の階名によりて練習する傾きとなりたり。これ英米諸國の階名は、發聲上開音閉音の割合適度にして、頗る完全圓滿なるものなれ

ばなり。

第二十五問　半音階の階名を問ふ。

答　上行に於ける音を

ド　ド♯　レ　レ♯　ミ　ファ　ファ♯　ソ　ソ♯　ラ　ラ♯　シ　ド

DO　DA　RE　RI　MI　FA　FE　SOL　SAL　LA　LE　SI　DO

といひ、

下行に於ける音を

ド　シ　シ♭　ラ　ラ♭　ソ　ファ♯　ファ　ミ　ミ♭　レ　レ♭　ド

DO　SI　SE　LA　LO　SOL　SUL　FA　MI　ME　RE　RA　DO

といふ。

日本の階名では上行に於ける音を

1ヒ　♯1ト　2フ　♯2ヘ　3ホ　4マ　♯4ミ　5イ　♯5ム　6ナ　♯6ラ　7ネ　iヒ

といひ、

下行に於ける音を

iヒ　7ネ　17ネ　6ナ　16ラ　5イ　15ム　4マ　3ホ　13ヘ　2フ　12ラ　1ヒ

といふ。

第二十六問　樂理上曲に雅俗の性ある故を問ふ。

答　旋法の差異による旋法とは音のめぐり具合の法則をいふものにして、旋律が十二律音階を上下する際、通過する道筋如何によりて、先づ種々の音階を生じ、而して諸々の曲節は、必ず自ら一定の音階を通過するを法とす。

第二十七問　當今我が國に普通なる旋法は幾つあるか。

答　本邦現存の旋法

- 歐州樂旋法
  - 長旋法
  - 短旋法
- 雅樂旋法
  - 律旋法
  - 呂旋法
- 俗樂旋法
  - 陰旋法
  - 陽旋法

以上六種あり。

第二十八問　雅樂とは如何之を說明せよ。

答　雅樂とは、もと純粹の支那樂と印度樂と及び三韓の樂と本邦古代の樂とより成り、朝廷は勿論民間にても用ひられたるものなり。奈良朝時代に最も隆盛を極め、爾來盛衰ありて今日に至り、專ら朝儀神祭に用ひらる。現今敎育上に用ふる唱歌の內に「君が代」を初とし、雅樂調の音階によりて成れるもの多し。

第二十九問　雅樂の五聲とは如何。

答　宮（キュウ）・商（シャウ）・角（カク）・徵（チ）・羽（ウ）を五聲といふ。此の名稱は西洋音階の各段に付したる階名に相當せるものにして、五聲音階の階段に付せる特別の名稱なり。此の五聲を西洋長音階と對照するときは、各音の關係左圖の如し。

| (五聲音階) | (四洋長音階) |
|---|---|
| 羽 | 6 |
| 徵 | 5 |
| 角 | 4 |
| 商 | 3 |
| 宮 | 2 |
| | 1 |

第三十問　雅樂の十二律を命名して說明せよ。

答　十二律とは壹越(イチコツ)・斷金(ダンギン)・平調(ヒヤウデウ)・勝絕(シヨウヒツ)・下無(シモム)・双調(サウ)・鳧鐘(ブウフシヨウ)・黃鐘(ワウシキ)・鸞鏡(ランケイ)・盤涉(バンシヤ)・神仙(シンセン)・上無(カミム)をいふ。日本及び英米の音名と雅樂音名(十二律)とを對照すれば左の如し。

| 雅樂音名 | 日本音名 | 英米音名 |
|---|---|---|
| 壹越 | ニ | D |
| 上無 | 變ニ 嬰ハ | b D # C |
| 神仙 | ハ | C |
| 盤涉 | ロ | B |
| 鸞鏡 | 變ロ 嬰イ | b B # A |
| 黃鐘 | イ | A |
| 鳧鐘 | 變イ 嬰ト | b A # G |
| 双調 | ト | G |
| 下無 | 變ト 嬰ヘ | b G # F |
| 勝絕 | ヘ | F |
| 平調 | ホ | E |
| 斷金 | 變ホ 嬰ニ | b E # D |
| 壹越 | ニ | D |

第三十一問　呂旋法とは如何。之を說明せよ。

答　呂旋法とは五聲に變徵・變宮の二音を加へたる七音より成れるものにして、此の旋法の形狀は殆ど長音階と相同じ。

| (長音階) | (呂旋) | |
|---|---|---|
| DO | 1 | 宮 |
| SI | 7 | 宮變 |
| LA | 6 | 羽 |
| SOL | 5 | 徵 |
| FA | 4 | 徵變 |
| MI | 3 | 角 |
| RE | 2 | 商 |
| DO | 1 | 宮 |

呂旋法は古來用ふること甚だ稀なり。

第三十二問　律旋法とは如何之を說明せよ。

答　律旋法とは五聲音階に變商變羽の二音を加へたる七音より成れるものにして、此の旋法の形狀は旋律的短音階の下行に酷似せること左の如し。




律旋法は古來最も多く使用せらるゝ音階にして、謠唱歌集に見ゆる雅樂調は概ね此の旋法によりて成れるものなり。

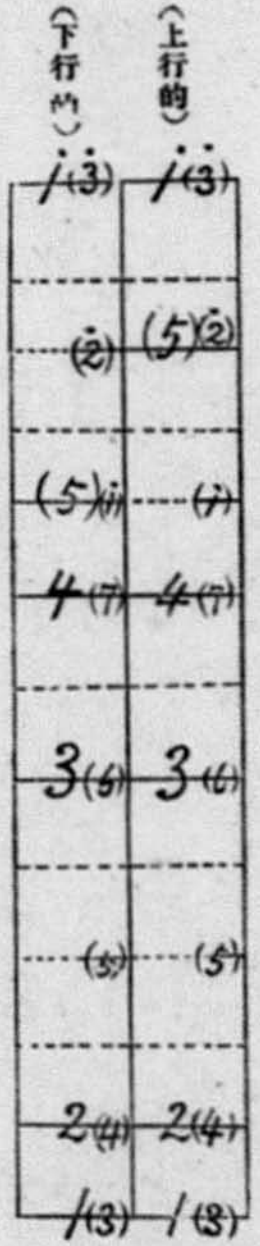
第三十三問　俗樂の由來を述べ、併せて當時流行せる俗樂及び樂器名を列擧せよ。

答　俗樂は本邦古來の樂にして、中古隋唐及び高麗百濟樂等の混入する所となり、此等の諸樂は其の時代々々の人情に從ひて、本邦古來の樂と相融和圓熟し、漸進以て今日に至りたるものなり。當時流行せる俗樂の樂器には、三絃箏、尺八、琵琶、笛等あり、又聲樂として掲ぐべきものには謠曲、義太夫節、清元節、常

盤津節・長唄・端歌・流行歌等あり。

**第三十四問**　陰旋法の音階を説明すべし。

**答**　十二律中任意の音を主調音と定め、それより上へ半音・全音・全音・全音・半音・全音・全音といふ如き關係に各音を配置したる、全音階は、之を陰旋法の音階といふ。然れども實際に於て此の旋法の曲は五音のみを使用し、且つ上行的と下行的と階段を異にす。今之を圖解し、且つ譜表に記載すれば左の如し。




(上行)　(下行)

**第三十五問**　陽旋法の音階を說明せよ。

**答**　陽旋法の音階は上行的と下行的と階段を異にす。其の上行するものは先づ十二律中任意の音を主調音と定め、それより上へ全音・半音・全音・全音・半音・全

音全音といふ如き關係に全音階を配置し、又下行するものにありては主調音より下方へ全音半音全音全音全音半音全音といふ如き關係に配置せる全音階なり。即ち此の旋法の曲は上行する場合には、上行的音階を經、下行する場合には下行的音階の各段を過ぎて往來するを法とす。







第三十六問　主調音（キーノート）とは如何。（一名主音）

答　音樂に用ふる樂音は何れの音よりも長音階若くは短音階を始め得べきものとす。換言すれば十二律中の何れの音を基としても、音階を構成することを得べし。而して其の構成を始むる第一音を主調音といふ。例せば「ハ」の音を

基本として一の音階を構成せば、卽ち「ハ」は其の音階の主調音なり、又「ニ」調音階の主調音は「ニ」の音なるが如し。

第三十七問　階名と音名との別を問ふ。

答　音名は十二律の各音に附與したる一定不易の名稱なり。故に假令其の音階が「ハ」を主調音とするも、又「ニ」を主調音とするも、常に吾人は一秒時間に三八七.五振動する音あらば、之に對して「ト」と命名するが如し。又階名は唱歌練習上、便宜のため音階の各段に附與したる名稱にして、時に隨つて變ず。譬へば「ハ」を主調音とせる音階にありては、(DO)は「ハ」(C)の處に當れども、「ロ」を主調音とせる音階の場合には(DO)は「ロ」(B)に相當するが如し。

第三十八問　半音に二種ありと。之を說明せよ。

答　半音に全音階的半音と半音階的半音との二種あり。甲は「ホ」と「ヘ」(EとF)間の如く、異れる二音名間に生ずる半音にして、乙は「ハ」と「#ハ」(CとC#)間の如く、同じ二音名間に生ずる半音の謂なり。

第三十九問　無點十二律の一秒間に於ける振

動數を問ふ。

ハ　=517.3
ロ　=488.3
#イ(bロ)=460.9
イ　=435.0
#ト(bイ)=410.6
ト　=387.5
#ヘ(bト)=365.8
ヘ　=345.3
ホ　=325.9
#ニ(bホ)=307.6
ニ　=290.3
#ハ(bニ)=274.0
ハ　=258.6525

第四十問　變化記號の臨時用として使用せらるゝ場合を擧げて說明せよ。

答　變化記號の臨時用としては、音律を臨時に高く或は低く移す時に用ひらるるものにして、其の常用のものは嬰(シャープ)變(フラット)本位(ナチュラル)の三にして、此等の記號は常に音符の前に書し、音名に冠して呼ぶ。

1. 嬰(シャープ)は音律を半音上ぐる記號にして、(#)の印を用ひて表示す。

2. 變(フラット)は音律を半音下ぐる記號にして、(b)の印を用ひて表示す。

3. 本位(ナチュラル)は其の名の如く本の位置に復することを示すものにして、即ち嬰・變の效用を取消す記號なり。

通例(♮)の印を用ひて表示す。

第四十一問　變化記號有效の範圍如何。

答　變化記號の效力は其の記されたる小

節内に含める同名の音のみに限るものにして、且つ既往の音符には效力を及ぼさず。

第四十二問　基本音階(一名模範音階)とは如何なる音階なりや。

答　「ハ」調音階は本位音のみにて成立するものにして、他の長音階の基礎ともなり、模範ともなるものなれば、此の「ハ」調音階を基本音階と云ふ。「イ」調短音階は記載を略す。

第四十三問　移調法(フランス ポジシヨン)を說明せよ。

答　音階は「ハ」調長音階一箇のみにては足らざるを以て、尙各音により、數多の長音階を構成することを得而して其の音階を構成するには「ハ」調長音階に比して成るべく變化の少きものを先にす。斯くなさんには「ハ」調を基礎として上方五度に構成するか、下方五度に構成するかを選ばざるべからず。是れ變化の最も少きものなればなり。此の構成の方法を名づけて移調法といふ。

第四十四問　唱歌敎授上、移調の必要なる所以

を述べよ。

答　移調法は、音樂を學ばんとするものの精通せざるべからざるものなり。唱歌教師たらんとするものには特に然りとなす。例へば「ト」調の唱歌を授けんとする場合に、生徒の聲域に適せざるときは原調を他の高き調或は低き調に移す必要あるべし。若し生徒の聲域に適せざる原調のまゝにて授けんか、生徒の發聲器を害すること多かるべし。

第四十五問　嬰種長音階の七種の名を擧げて說明せよ。

答　ハ調長音階を基礎として、上方五度に順次に移調するときは、「ト」調「ニ」調「イ」調「ホ」調「ロ」調「嬰ヘ」調「嬰ハ」調の七長音階を得。而して此等の音階は何れも嬰記號を有せるを以て、總稱して嬰種長音階といふ。嬰種移調に於ては、舊音階の第五音は新音階の第一音となり。舊音階の第四音は常に嬰音となりて、新音階の第七音となるものなり。

嬰種移調に於て嬰記號の付くべき音の順序は、(ヘ)を第一とし、次に(ハ)(ト)(ニ)(イ)(

(ホロ)の順序によりて附くべきものなりとす。

第四十六問　變種七長音階の名を擧げて說明せよ。

答　ハ調長音階を基礎として、下方五度に順次移調するときは「ヘ」調、「變ロ」調、「變ホ」調、「變イ」調、「變ニ」調、「變ト」調、「變ハ」調の七長音階を得。而して此等の音階は何れも變記號を有せるを以て、總稱して變種長音階といふ。變種移調に於て變記號の付くべき順序は、(ロホイニトハヘ)にして、變種移調の場合とは全く正反對なり。是れ移調の方法に於て、上方五度と下方五度とは全く正反對なればなり。

第四十七問　音階構成法(一名移調法)につき、記憶の便法を問ふ。

答　記憶に便するため、變種の方は諸調の音階の臨時音數を、簡單なるものより順に列すること、卽ちト調、ニ調、イ調、ホ調、ロ調、嬰ヘ調、嬰ハ調等これなり。是に因りて唯器械的に(ハトニイホロヘ)(#####)と記憶し、臨時音なき時は「ハ」調一つあ

るは「ト」調(嬰ヘの音に)、二つあるは「ニ」調(嬰ヘ、嬰ハの音に)といふ樣にして之を覺ゆるなり。又變種の方も同方法により(ヘロホイ)(ヘロホイニトハ)と記憶し、一臨時音あるは(ヘ調(變ロの音に)、二つあるは變ロ調(變ロ、變ホの音に)といふ如く把住するなり。

第四十八問　變ニ調と嬰ハ調、變ト調と嬰ヘ調、變ハ調とロ調は如何なる差異あるか。

答　此の嬰變兩種音階は、譜表上に於ては何れも一度の差を有すれども、有鍵樂器の鍵盤上に於ては全く同一なるものなり。故に七變を有する變ハ調を便利上五嬰を有するロ調に記譜することとあり。然れども實際上の結果は全く同じきものと知るべし。

第四十九問　各長音階及び之に關係する短音階を擧げよ。

答　ハ調長音階―イ調短音階
ト調長音階―ホ調短音階
ニ調長音階―ロ調短音階
イ調長音階―(♯ヘ)調短音階
ホ調長音階―(♯ハ)調短音階

ロ調長音階―(#ト)調短音階
(#ヘ)調長音階―(#ニ)調短音階
(#ハ)調長音階―(#イ)調短音階
ヘ調長音階―ニ調短音階
(bロ)調長音階―ト調短音階
(bホ)調長音階―ハ調短音階
(bイ)調長音階―ヘ調短音階
(bニ)調長音階―(bロ)調短音階
(bト)調長音階―(bホ)調短音階
(bハ)調長音階―(bイ)調短音階

第五十問　主調音階と附屬音階とは如何なる關係を有するものなるか。

答　主調音階とは、某音を基となして成立する所の音階をいひ、附屬音階とは其の音階の第四度若くは第五度を基となして成立したるものをいふ。例へば(ハ)音を主調音とする音階の附屬音階は(ヘ)調音階(第四度)及び(ト)調音階(第五度)等の如し。

第五十一問　各長音階の附屬長音階を擧げよ。

答　ハ調長音階｛ト調長音階
　　｛ヘ調長音階

ト調長音階　ニ調長音階
ハ調長音階

ニ調長音階　イ調長音階
ト調長音階

イ調長音階　ホ調長音階
ニ調長音階

ホ調長音階　ロ調長音階
イ調長音階

ロ調長音階　#ヘ調長音階
ホ調長音階

#ヘ調長音階　#ハ調長音階
ロ調長音階

#ハ調長音階　#ニ調長音階
#ヘ調長音階

#ニ調長音階　ハ調長音階
#ハ調長音階

ハ調長音階　ヘ調長音階
ロb調長音階

ヘ調長音階　ロ調長音階
ホb調長音階

ロ調長音階　ホ調長音階
イb調長音階

ホ調長音階　イ調長音階
ニb調長音階

b ニ 調長音階
b ト 調長音階

b イ 調長音階
b ニ 調長音階
b ト 調長音階
b ハ 調長音階

第五十二問　關係短音階とは如何なるものをいふか。

答　關係短音階とは某長音階の下短第三度より成立したるものをいふ。例へば(ハ)調長音階に關係したる短音階は、其の下短第三度即ち(イ)調短音階なるが如し。

第五十三問　自然的短音階は何音を基としたるものなるか。

答　(イ)音を基としたるものなり。

第五十四問　短音階は樂譜上如何に之を知るか。

答　臨時の記號が常に導音の處にあるを以て之を知る。

第五十五問　全音階の各音の名稱及び特性を問ふ。

他の諸音の悉く靜止する所にして、七音中の帝王とも稱

答　第一階　主和絃（トニック）　すべき音なり。卽ち此の和絃は一樂曲旋律の終止する基本點とす。

第二階　上主和絃（スープラトニック）　他に比すれば微力なる和絃にして、上昇の際よりも寧ろ下降の際效用を顯はす。

第三階　中和絃（メジアント）　主和絃と屬和絃との中間にありて、靜止の意義を保有す。

第四階　次屬和絃（サブドミナント）　音聲の屬和絃より上主和絃に下降する際、其の經過上に必要の音とす。

第五階　屬和絃（ドミナント）　主和絃に次で勢力ある音にして、兩者恰も宰相と君主との如く、常に能く主和絃を奉戴輔翼す。矢張靜止的の和絃なり。

第六階　次中和絃（サブミディアント）（一名上屬和絃）　主和絃と次屬和絃との中間にありて、全く上主和絃と同性を有す。

第七階　導音（リーディングトーン）（一名下主和絃）　長音階を下方より上方に唱誦する際、偶々此の音に至らば是非とも主和絃に歸結せんとの觀念を惹き起さしむる音にして、所謂次中和絃より主和絃に上る時の經過上に必要なる音とす。

第八階　主和絃（トニック）　第一音階の循環せしもの。

第五十六問　樂譜とは如何なるものをいふか。

答　樂譜とは諸種の記號によりて、樂音の曲節を可視的に（眼にて視らるゝ樣に）表はしたるものなり。

第五十七問　樂曲とは如何なるものをいふか。

答　樂曲とは種々異なりたる樂音の繼續して一の進行をなすものをいふ。

第五十八問　樂譜に二種類あり。其の名を問ふ。

答　普通樂譜（コンモン　ノーテーション）略譜（レクソル　ノーテーション）これなり。

第五十九問　音符とは如何なるものをいふか。

答　音樂上に用ふる聲音を可視的に表示し、且つ其の長短と所在とを詳にする記號を音符といふ。

第六十問　普通用ふる音符は幾箇あるか。其の名稱及び形狀を記載せよ。

答　其の數六箇あり。左の如し。

一、𝅝　全音符

二、𝅗𝅥　二分音符

三、♩　四分音符

四、♪　八分音符

五、𝅘𝅥𝅯　十六分音符

六、𝅘𝅥𝅰　卅二分音符

第六十一問　此の六箇の音符の中、何れを最も長しとするか。

答　全音符を最長の音となし、順次に其の半數の長さを有するものなり。

第六十二問　默符（休止符）とは如何なる用をなすものなりや。

答　默符（休止符）とは樂曲進行上、或部分に於て聲音の默過すべきを示す記號な

り。

第六十三問　通常用ふる默符の數及び其の形狀を問ふ。

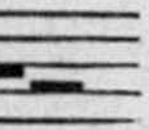
答　音符と同じく通常六箇あり、其の形狀左の如し。

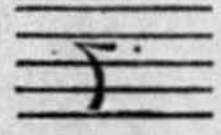
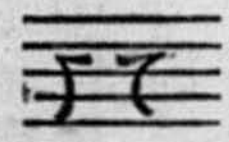


全音默符　二分默符　四分默符　八分默符　十六分默符　三十二分默符

第六十四問　音符或は默符の後に小點のあるは如何なる用をなすものか。

答　音符或は默符の後に小點のあるは、其の前符の長さの二分の一だけ加ふることを示すものなり。

例へば  とあるときは  の如く、 は  の如く、

 は  の如し。

第六十五問　譜表（スヒョウ）は如何なる用をなすものか、且つ其の形は如何。

答　譜表とは音の高低を表示する一種の記號にして、同間隔に於て水平に竝行せる五線（ゴセン）と四間（シカン）とより成立す。

第六十六問　譜表の如何なる部分に音符を記載するか。

答　音符は譜表の線上及び線間に排記するものなり。

第六十七問　加線は如何なる用をなすものか。

答　五線四間にて未だ音の不足を告ぐる場合には、其の需要の場所に限り、上下へ臨時に短線を增加す。此の短線を名づけて加線といふ。

第六十八問　譜表の數へ方及び五線四間の稱呼方を問ふ。

答　譜表の數へ方は、通例下より上に數ふ。但し五線の下に添へたる線間のみは、下に數ふるを習慣とす。其の讀み方は一線（イッセン）・二線（ニセン）・一間（イッカン）・二間（ニカン）・上一線（ウヘノイッセン）・下二線（シタノニセン）・上一間・下二間等と呼ぶ。

（附）度の事＝譜表の各線間を一度とす。故に五線四間中には九度を含有する割合な

り。換言すれば度とは線及び間に關していふものにして、即ち線と間とを通じて數へたる可視的の距離なり。

第六十九問　大譜表とは如何なるものなるか。

答　大譜表とは高音部譜表と低音部譜表とを合せ鈎線を以て連合したるものをいふ。即ち左の如し。



第七十問　大譜表は如何なる場合に用ふるか。

答　有鍵樂器（洋琴（ピアノ）・風琴（オルガン））の類竝びに四部以上の人聲の合唱に用ふる譜表なり。

第七十一問　「バイオリン」の譜を記載する譜表は如何。

答　高音部譜表を用ふ。

第七十二問　三箇の音部記號の名稱及び形狀を問ふ。

答



第七十三問　高音部記號の置かるゝ譜表の音名を問ふ。

答



第七十四問　中音部記號の置かるゝ譜表の音名を問ふ。



第七十五問　低音部記號の置かるゝ譜表の音名を問ふ。

答



第七十六問　音部記號とは如何。

答　音部記號は譜表上音の名稱及び高低の標準を定むる符號なり。

第七十七問　小節とは如何なるものをいふか。

答　樂譜上縱線の間を小節といふ。

第七十八問　樂曲の終りは如何に之を示すか。

答　復縱線を畫して之を示す。

第七十九問　普通使用する拍子を擧げよ。

答　二拍子・三拍子・四拍子・六拍子等とす。

第八十問　各拍子に於ける強弱の部分を問ふ。

答　二拍子は第一拍が強にして第二拍を弱とし、三拍子は第一拍子を強として第二三拍を弱とし、四拍子は第一拍を強とし、第三拍を中強とし、第二四拍を弱とす。而して六拍子は第一拍を強とし、第四拍を中強とし、第二三五六拍を總べて弱とす。

第八十一問　拍子記號とは如何なるものなりや。

答　拍子記號は通常樂曲の初め音部記號の次にある數字なり。卽ち其の數字の分母は小節中に含む重なる音符の種類を示し、分子は之に相當すべき一小節中の音符の箇數を表はすものなり。

第八十二問　普通用ふる拍子の記號を擧げよ。

答　普通用ふるものを$\frac{2}{2}$　$\frac{4}{2}$　$\frac{2}{4}$　$\frac{3}{4}$　$\frac{4}{4}$　$\frac{3}{8}$　$\frac{4}{8}$　$\frac{6}{8}$等とす。

第八十三問　Cなる拍子記號は如何なる拍子なるか。

答　Cは普通拍子の略號にして、$\frac{4}{4}$拍子なり。

第八十四問　¢なる拍子記號は如何なる拍子なるか。

答　¢は普通拍子と同一の價値を有する拍子なれども、$\frac{2}{2}$ 拍子を示すものにして $\frac{4}{4}$ より稍々速かなるものとす。

第八十五問　二拍子・三拍子・四拍子・六拍子の拍節法を示せ。

答　二拍子は右手を上下して、一二・一二と數ふるものなり。但し下拍を一とし上拍を二とす。三拍子は下拍・右拍・上拍と右手を運動しつゝ、一二三・一二三と數ふるものなり。四拍子は下拍・左拍・右拍・上拍とす。卽ち下拍は一にして、左拍は二、右拍は三、上拍は四拍とす。六拍子は下拍・左拍・左拍・右拍・右拍・上拍とす。卽ち下拍は一にして、左拍は二、次の左拍は三、右拍を四、又右拍を五とし、上拍を六とす。

第八十六問　某音を再び半音上げるときは、如何なる記號を附するか。

答　重嬰と名づくる記號×を附す。

第八十七問　某音を再び半音下ぐるには、如何なる記號を附するか。

答　重變と名づくる記號bbを附す。

第八十八問　重變の記號を附したる音を變音となさんには如何にすべきか。

答　變と本位記號とを記し之を示す。(卯)

第八十九問　重變の記號を附したる音を變音となさんには如何にすべきか。

答　變と本位記號とを記し之を示す。(卯)

第九十問　發想記號とは、如何なるものを表はすものなるか。

答　樂曲固有の趣味を發揮せしめ感動の度を益々深からしめんが爲、樂曲の首に或は一部分に又は或る一音符に種々の記號を附記す。此等の諸記號を總括して發想記號といふ。卽ち樂音の抑揚を顯はす記號なり。

第九十一問　發想記號の種類を擧げよ。

答　普通使用する發想記號を大別して左の三種とす。

一、強弱記號

二、緩急記號(曲想に關するもの)

三、雜記號(以上の部門に屬せしめ難き記號)

第九十二問　P.なる文字は如何なることを示すか。

答　樂譜上にPなる文字あるときは、其の部分を弱音に謡ひ、或は奏することを示すものなり。(ピアノの略號P)

第九十三問　PPなる文字は如何なることを示すか。

答　樂譜上にPPなる文字あるときは、其の部分を甚だ弱音に謡ひ、或は奏することを示す。(ピアニッシモの略號PP)

第九十四問　MPなる文字は如何なることを示すか。

答　MPは稍々弱音に謡ひ、或は奏することを示すものなり。(メッゾ ピアノの略號MP)

第九十五問　Fなる文字は如何なることを示すか。

答　Fは強音に謡ひ或は奏することを示すものなり。(フォルテの略號F)

第九十六問　FFなる文字は如何なることを示すか。

答　最も強音に奏し、或は謡ふことを示すものなり。(フォルティッシモの略號FF)

第九十七問　MFは如何なることを示すか。

答　稍々強く謡ひ、或は奏することを示すものなり。

（MEZZO FORTE（メッゾ フォルテ）の略號MF）

第九十八問　∧又はSFなる文字は如何なることを示すか。

答　其の記されたる所の音符のみ特に強く奏し、或は謡ふことを示すものなり。

（SFORZANDO（スフォルツァンド）の略號∧又SF）

第九十九問　ACなる文字は如何なることを示すか。

答　其の記されたる所の音符のみ特に強く奏し、或は謡ふことを示すものなり。

（ACCENT（アクセント）の略號AC）

第百問　∨又は(CRESC)なる記號は如何なる用ことを示すか。

答　增聲の記號と云ひ、漸次樂音を强大とすることを示す。

（CRESCENDO（クレスセンド）の略號）

第百一問　∧又はDECRESC又はDIMは如何なることを示すか。

答　減聲記號といひ、樂音を漸次小弱とすることを示す。

(DECRESC は DECRESCNDO の略號
DIM は DIMINUENDO の略號)

第百二問　普通用ふる緩急記號を列擧し、其の意義を說け。

答　ACCEL. (ACCELERANDO)樂曲進行中或部分より次第に急速にする時之を用ふ。

RALL. (RALLENTANDO)漸次緩徐にする時之を用ふ。

RIT. (RITARDANDO)漸次緩延にする時之を用ふ。

CAL. (CALANDO)漸次緩靜にする時之を用ふ。

ADAGIO 甚だ緩徐に。

ALLEGRO 愉快に急速に。(凡そ半秒時に四分音符一箇の速度とす。)

ALLEGRETTO「あれぐろ」の如く速からず。

ALLEGRO NON TROPPO 急速に過ぎざる樣の意。

ANDANTE 稍々緩徐に且つ「あんだんて」よりも速に。(凡そ一秒時間に四分音符一箇の速度)

ANDANTINO 緩徐に。

A. TEMPO 或樂曲の一部に於て一旦其の速度を變更したるものを更に元の速度に復せしめんとする場合には、其の緩急に拘らずこの記號を用ふ。

GRAVE 極めて緩徐に。(嚴格に。)

LARGO 最も緩徐なる拍子。(廣大に。)

LARGHETTO 緩漫なる拍子。(寧ろ廣大に。)

LENTO 少しく緩徐に。

LISTESSO TEMPO 前の拍子を保つての意なり。(固有の拍子と同樣の拍子に。)

MODERATO 中庸の速度。

MODERATO ASSAI「もでれーと」よりも稍々速くの意。

MOLTO 甚だの意。

PRESTO 甚だ急速に。

PRESTISSIMO 爲し得べき極度の速さ。(火急に。)

第百三問　SOLO. DUET. TRIO. QUARTETTO. CHORUS. 等の意義を問ふ。

答　「ソロ」　獨唱或は獨奏

「ヂーエット」　二人聯唱或は聯奏

「トリオ」三人聯唱或は聯奏
「クオーテルト」四人聯奏或は聯唱
「コーラス」合唱

第百四問　D.S なる文字は如何なることを示すか。

答　𝄋 のある所まで返奏することを示すものなり。

第百五問　𝄐 なる音符は如何なることを示すか。

答　四分音符一箇と同格の時間を有するものにして、一拍の間に三音を奏唱することを示すものなり。

第百六問　(●) なる記號は如何なることを示すか。且つ其の名稱を問ふ。

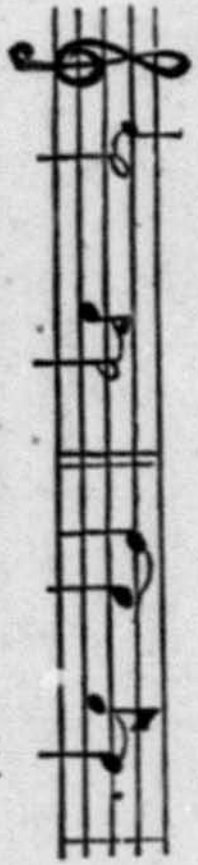
答　延聲記號と云ひ、此の記號のある音符若くは默符は、其の固有の長さより稍々長く延ばすものとす。

第百七問　𝄐 及び 𝄐 は如何なることを示すか。

答　𝄐 は  の略號にして、𝄐 は  の略號とす。

第百八問　倚音とは如何なる音なるか、且つ其の書法竝びに奏法を問ふ。

答　倚音とは某音符の前に小符の連結線によりて結合されたるものにして、其の音符と同一の拍子内に於て二音以上の飾裝音を發するものをいふ。而して之に二種あり。一つは主音の上音に於けるものにして、一つは主音の下音に於ける音よりなる。例へば。



（譜　略）　（譜　略）　（譜　略）

一、主音より其音長の二分の一を借るものと、四分の一を借るものとあり。

二、主音附點音符なるときは、其の三分の二を借る。

第百九問　碎音とは如何なる音なるか、其の書法及び奏法を問ふ。

答



（譜　略）　（譜　略）